歴史ポートフォリオ　第3学年

第７章　現代の日本と世界　　　　　　　　 3年4組29番 東久保悠空人

１節　日本の民主化と冷戦

|  |
| --- |
| 【学習課題】  「戦後の日本は、どのような国を目ざし、国際社会に復帰したのだろう。」 |

①　敗戦からの再出発　▷日本占領と国民生活

|  |
| --- |
| 【めあて】連合国軍の占領政策をとらえる |
| 【わかったこと・感想（学習課題につながること）】 |

　②　平和国家を目ざして　▷日本国憲法の公布と諸改革

|  |
| --- |
| 【めあて】日本国憲法が目ざした社会をとらえる |
| 【わかったこと・感想（学習課題につながること）】 |

　③　冷たい戦争の始まり　▷米ソの対立とアジア・アフリカ

|  |
| --- |
| 【めあて】戦後の国際関係をとらえる |
| 【わかったこと・感想（学習課題につながること）】 |

④　独立の回復　▷国際社会への復帰

|  |
| --- |
| 【めあて】日本の独立回復の過程をとらえる |
| 【わかったこと・感想（学習課題につながること）】 |

●　１節のまとめ　●（学習課題に対するまとめ）

「戦後の日本は、どのような国をめざし、国際社会に復帰したのだろう。」について、まとめよう。

|  |
| --- |
|  |

２節　世界の多極化と日本

|  |
| --- |
| 【学習課題】  　「冷戦下の国際社会の中で、日本ではどのような変化があったのだろう。」 |

⑤　自主・独立・平和を求めて　▷1960～70年代の世界

|  |
| --- |
| 【めあて】1960～70年代の世界をとらえる |
| 【わかったこと・感想（学習課題につながること）】 |

⑥　国際関係の変化　▷安保改定と国交正常化

|  |
| --- |
| 【めあて】安保改定と韓国・中国との国交正常化をとらえる |
| 【わかったこと・感想（学習課題につながること）】 |

⑦　高度経済成長の光とかげ　▷豊かな国民生活と公害

|  |
| --- |
| 【めあて】高度経済成長の影響をとらえる |
| 【わかったこと・感想（学習課題につながること）】 |

⑧　わが家にテレビがやってきた　▷マスメディアの発達と戦後の文化

|  |
| --- |
| 【めあて】戦後から高度経済成長期までの文化の特色をとらえる |
| 【わかったこと・感想（学習課題につながること）】 |

●　２節のまとめ　●（学習課題に対するまとめ）

「冷戦下の国際社会の中で、日本ではどのような変化があったのだろう。」について、まとめよう。

|  |
| --- |
|  |

３節　冷戦の終結とこれからの日本

|  |
| --- |
| 【学習課題】  　「冷戦後、変化する国際社会の中で、日本ではどのような動きがあったのだろう。」 |

　⑨　民主化のうねりと国際社会の変化　▷冷戦終結後の世界

|  |
| --- |
| 【めあて】冷戦終結後の世界をとらえる |
| 【わかったこと】  冷戦は1989年のマルタでの会談を持って終結した。その2年後に、ソ連は崩壊した。ソ連崩壊後、ロシア連邦と14の共和国が独立したが、現在でもその領土を巡って、戦争が行われている。  ソ連崩壊後のアメリカは、湾岸戦争などの戦争に積極的に介入した。しかしそれは、中東諸国からの反発を招き、同時多発テロを引き起こした。その後、アメリカはイラク戦争を起こし、多くの難民を生み出した。2010年代にはアラブに民主化の波がやってきたが、民主化は達成されず、内戦を引き起こす結果に終わった（アラブの春）。2023年にはパレスチナとイスラエルの戦争が起こるなど、現在も、民族紛争が絶えない地域である。ソ連崩壊後、唯一の超大国となったアメリカは、その奢りによって、悲劇を引き起こすことになった。  【感想】  今回の授業で、物事は、二分できないことがわかった。歴史はそう簡単なものではなく、様々な側面から捉えることが必要だと感じた。情報化・グローバル化が進んだ現代においても、私たちはどちらか一方に都合の良い情報しか得ていないように思う。どちらか一方を悪と決めつけるのでなく、幅広い視野で、真実をありのままに捉えていきたい。  【疑問】  現在のロシアの中高生たちは冷戦終結、そしてソ連崩壊をどのように捉えているのだろうか。一年前には、ロシアの国定教科書が、ウクライナ侵攻を正当化していると、報じられた。だがそれも、西側諸国から見たものであって、ロシアにはロシアの言い分があり、その中に、歴史的な事実があるかもしれない。是非一度、ロシアの教科書を読んで見たいものだ。 |

⑩　泡のように膨らむ経済　▷バブル経済と55年体制の崩壊

|  |
| --- |
| 【めあて】冷戦終結後の日本とアジアをとらえる |
| 【わかったこと】  1985年のプラザ合意を経て、日本はバブル経済へと突入した。バブル経済は日本に空前の好景気をもたらしたが、それは泡のような実態のないものだった。結果的に、バブル経済は崩壊した。一方、アジア諸国（特に中国）は現在でも、発展をし続けている。2000年代以降は、派遣の解禁が進み、派遣切りなどが社会問題化した。国内の格差が広がり続けるきっかけとなった。  【感想】  今を生きている私たちからすれば、それがバブルであることは明白だが、実際にその時代を生きていたのなら、きっと気づけなかったと思う。バブル自体は、何度も繰り返されていることだが、「今の状況がバブルだ」とは思えなかっただろう。  『過去の事例から学び、現在の状況をとらえ、未来を予測する』これこそが、まさに、歴史を学ぶ意義であると思う。バブルは30年周期で訪れるという説もある。30年は過ぎたが、これからも、バブルは定期的にやってくるだろう。その時に「これはバブルだ」と気付けるよう、歴史の勉強をさらに意欲的にしていきたい。  （This time is different と思わないよう） |

　⑪　私たちの生きる時代へ　▷21世紀の日本

|  |
| --- |
| 【めあて】現代がどのような変化の中にあるのかをとらえる |
| 【わかったこと】  2008年、アメリカの住宅バブルは弾け、リーマンブラザーズの破綻から世界金融危機が起こった。09年には、その影響もあり、自民党から民主党に政権が交代した。しかし、普天間基地問題や東日本大震災の対応などで大きな批判を受け、12年、再び自公連立政権が誕生した。1995年の阪神淡路大震災や11年の東日本大震災など、現代でも自然災害は相次いでおり、復興と災害対策が求められている。また、インターネットの発展により、グローバル化が進んでいる。日本の漫画、アニメなどの文化も世界へと広がっている。  【感想】  物心ついた頃から「総理といえば安倍さん、与党といえば自民党」で、かつては、自民党以外の政党が政権を持っていた、という事実が新鮮に感じられた。現在、自民党の総裁選挙や、立憲民主党の代表選挙が行われており、来年には、参議院選挙が控えている。裏金問題、パーティー券問題などで揺れる今、再びの政権交代が叫ばれているが、2011年までの状況を踏まえると、慎重になった方がいいと思った。今の与党がダメだから、野党を推すのではなく、しっかりとその政党の考え方や政策に共感した上で、投票することが、私たちに求められていると思う。 |

　⑫　未来をひらくために　▷世界の中の市民の一人として

|  |
| --- |
| 【めあて】誰もが暮らしやすい社会を築くためにできることを考える |
| 【わかったこと】  情報化によって世界はますます一体化（グローバル化）している。日本は、少子高齢化、在日外国人の増加などの課題を抱えている。誰もが暮らしやすい社会を築くためには、人権の擁護、民主主義の確立、環境問題への世界規模での対処、平和主義の推進、防災・減災の取り組みなどが大切である。  【感想】 |

●　３節のまとめ　●（学習課題に対するまとめ）

「冷戦後、変化する国際社会の中で、日本ではどのような動きがあったのだろう。」について、まとめよう。

|  |
| --- |
|  |

★　第８章のまとめ　★

　　第８章の学習課題「戦後から現在まで、日本の社会がどのように変化したのか」

（戦後とは何か）について、学んだことを中心に、まとめてみよう。【思考】

|  |
| --- |
|  |